



宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)館長
はま だ なつ つか ぎわ
濱田 直嗣 氏
元仙台市博物館館長(仙台市博物館嘱託)、仙台市史編さん委員、宮城県文化財保護審議会副会長、東北福祉大学非常勤講師
「図説伊達政宗」「東北の源流―美と風土と人の文化詩」「政宗の夢常長の現」を執筆

県民共済 宮城の歴史さんぽ道 特別編 第7弾

支倉常長帰還400年

― 慶長遣欧使節が現代に遺したメッセージ ―



パーソナリティ・リポーター
まつ い みな こ
松井 実那子 氏
仙台を中心に活動するタレント・リポーター・モデル
宮城県民共済ラジオ番組「みやぎスマイルプロジェクト」パーソナリティ

松井 それでは濱田館長の自己紹介からお願いします。

濱田 現在は宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)で館長を務めています。かつては仙台市博物館に館長として勤務し、今から10年前まで伊達政宗公時代の歴史と文化、とりわけ文化史を中心に調査・研究について続けてきました。

松井 濱田館長が慶長遣欧使節について研究するようになったきっかけは何ですか。

濱田 一部ユネスコの世界記憶遺産にも認定されている慶長遣欧使節関係資料は47点あり、それらをもとに政宗公の時代と慶長遣欧使節について突き詰めようと始めたのがきっかけです。史料というのは単なるモノではなく、それらが作られたときの想いが詰まっているので、史料と対話するのは楽しいですね。

松井 これまでの活動の中で、特に印象に残っている出来事はどんなことですか。

濱田 東日本大震災はインパクトが大きかったです。史実をひも解いてみると、慶長遣欧使節が旅立った2年前にも東日本大震災と同規模の震災(慶長奥州大地震・大津波)があり、大きな津波が押し寄せて仙台領や三陸沿岸はひどい被害を受けました。そんな中、当時の人たちは震災から2年も経たないうちに大きな船を造り、西洋やメキシコとの交流を図ろうとしました。震災を乗り越えて立ち

松井 上がろう、果敢に攻め込んで世界に広がっていくという強い意思は、今も我々のDNAの中にもあるのではと考えています。

松井 慶長遣欧使節とはどのようなもので、その目的は何だったのでしょうか。

濱田 大型木造船サン・ファン・パウティスタ号に使節を乗せて、メキシコやヨーロッパとの交流を図ろうというプロジェクトです。船に乗っていたのは180名ほどで、政宗公の家臣・支倉常長とともに、宣教師のルイス・ソテロも使節として1613年日本を出帆して太平洋を渡りました。三陸沿岸の測量を行っていた大使のセバスチャン・ビスカイノも重要な役割を担い、この3人こそが慶長遣欧使節の最大のキーマンということになります。政宗公が理想とする豊かな国づくりを進めるためには、どうしても膨大な財力が必要でした。それなら海外と貿易をして、その利益を国づくりに充てられないかと考えたのです。海外との交易は文化や技術の面でも交流が可能で様々な情報も入ってきます。また、仙台領内でキリスト教を布教するため、宣教師を派遣してもらおうという目的もありました。



慶長遣欧使節を率いた支倉常長
ユネスコ記憶遺産・国宝 支倉常長像
仙台市博物館蔵

松井 この計画自体、仙台藩と徳川幕府の連携が進められたわけですが、急速にスペインとの距離を縮めようとする仙台藩の動きに徳川幕府は危機感を持つことはなかったのでしょうか。

濱田 この頃、徳川幕府の中で政宗公は非常に有力な大名として扱われ、時期は天下の副將軍のような立場に置かれていました。他の大名たちの領国でキリスト教はどんどん禁止されていきま

松井 スペインとの通商交渉が頓挫した理由としては、具体的にどのようなことが考えられますか。

濱田 常長らは日本を出て2年後にローマに着きました。貿易と宣教師の派遣という二つの目的を果たすべく、仙台藩の人間、いわば伊達者として任務を遂行していましたが、その頃日本では大坂の陣が起り、キリスト教徒が味方についていた豊臣方が徳川方に敗れてしまいました。政宗公は徳川方に属していましたが、徳川幕府がキリスト教を弾圧しようとしている情報はバチカンにも入ってきて、政宗公の家臣である常長は疑いの目で見られるようになりました。政宗公は「自分はキリスト教徒の洗礼を受ける」と言っていたことが、最後まで洗礼を受けなかったことも西洋での使節に対する不信感を生み、通商交渉挫折へとつながっていました。

松井 この計画自体、仙台藩と徳川幕府の連携が進められたわけですが、急速にスペインとの距離を縮めようとする仙台藩の動きに徳川幕府は危機感を持つことはなかったのでしょうか。

濱田 この頃、徳川幕府の中で政宗公は非常に有力な大名として扱われ、時期は天下の副將軍のような立場に置かれていました。他の大名たちの領国でキリスト教はどんどん禁止されていきま

松井 慶長遣欧使節の宣教師、ルイス・ソテロは、日本国内におけるカトリック教会の大神教の座を狙っていたという野望があったそうですね。

濱田 確かにあったと思います。ルイス・ソテロは日本国内で自分の勢力を増やしたい、大神教の司祭の権限を得なければならぬという強い使命感を持っていたと思いますが、あまりにも個性が強すぎて、みんなから敬遠されがちでした。

松井 世界の勢力地図は、やがてイギリスやオランダといった新興国に変わっていきま

松井 慶長遣欧使節の宣教師、ルイス・ソテロは、日本国内におけるカトリック教会の大神教の座を狙っていたという野望があったそうですね。

濱田 確かにあったと思います。ルイス・ソテロは日本国内で自分の勢力を増やしたい、大神教の司祭の権限を得なければならぬという強い使命感を持っていたと思いますが、あまりにも個性が強すぎて、みんなから敬遠されがちでした。

松井 世界の勢力地図は、やがてイギリスやオランダといった新興国に変わっていきま

松井 慶長遣欧使節の宣教師、ルイス・ソテロは、日本国内におけるカトリック教会の大神教の座を狙っていたという野望があったそうですね。

濱田 確かにあったと思います。ルイス・ソテロは日本国内で自分の勢力を増やしたい、大神教の司祭の権限を得なければならぬという強い使命感を持っていたと思いますが、あまりにも個性が強すぎて、みんなから敬遠されがちでした。

松井 世界の勢力地図は、やがてイギリスやオランダといった新興国に変わっていきま

松井 慶長遣欧使節の宣教師、ルイス・ソテロは、日本国内におけるカトリック教会の大神教の座を狙っていたという野望があったそうですね。

濱田 確かにあったと思います。ルイス・ソテロは日本国内で自分の勢力を増やしたい、大神教の司祭の権限を得なければならぬという強い使命感を持っていたと思いますが、あまりにも個性が強すぎて、みんなから敬遠されがちでした。

松井 世界の勢力地図は、やがてイギリスやオランダといった新興国に変わっていきま



サン・ファン・パウティスタ号の航路

慶長遣欧使節の目的は何だったのか

仙台湾にとつて世界との交易の足がかりをつかむべく、壮大な計画でもあった慶長遣欧使節出帆。慶長遣欧使節の派遣は、海外貿易と震災復興事業の二つの目的を持っていたといわれていますが、400年という時を経て現代にどのようなメッセージを遺しているのでしょうか。

今回の企画は、エフエム仙台「みやぎスマイルプロジェクト」スマイル・インフォメーションでおなじみの松井実那子さんをパーソナリティ・リポーターに、ゲストとして宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)館長の濱田直嗣さんをお迎えし、慶長遣欧使節が現代に遺したメッセージをテーマに特別対談を実施しました。

この対談内容は令和2年4月19日に放送するエフエム仙台のラジオ番組内で公開され、その後、宮城県民共済のホームページ内にアーカイブ(音声)を公開します。対談の二部をこちらの紙面でも公開いたしますので、ぜひご覧ください。

※ホームページ内のアーカイブ(音声)の公開は、予告なしに中止することもあります。あらかじめご了承ください。



サン・ファン館(石巻市渡波)の復元船サン・ファン・パウティスタ号

慶長遣欧使節の通商交渉挫折の背景

スペインとの通商交渉が頓挫した理由としては、具体的にどのようなことが考えられますか。

常長らは日本を出て2年後にローマに着きました。貿易と宣教師の派遣という二つの目的を果たすべく、仙台藩の人間、いわば伊達者として任務を遂行していましたが、その頃日本では大坂の陣が起り、キリスト教徒が味方についていた豊臣方が徳川方に敗れてしまいました。政宗公は徳川方に属していましたが、徳川幕府がキリスト教を弾圧しようとしている情報はバチカンにも入ってきて、政宗公の家臣である常長は疑いの目で見られるようになりました。政宗公は「自分はキリスト教徒の洗礼を受ける」と言っていたことが、最後まで洗礼を受けなかったことも西洋での使節に対する不信感を生み、通商交渉挫折へとつながっていました。

スペインとの通商交渉が頓挫した理由としては、具体的にどのようなことが考えられますか。

常長らは日本を出て2年後にローマに着きました。貿易と宣教師の派遣という二つの目的を果たすべく、仙台藩の人間、いわば伊達者として任務を遂行していましたが、その頃日本では大坂の陣が起り、キリスト教徒が味方についていた豊臣方が徳川方に敗れてしまいました。政宗公は徳川方に属していましたが、徳川幕府がキリスト教を弾圧しようとしている情報はバチカンにも入ってきて、政宗公の家臣である常長は疑いの目で見られるようになりました。政宗公は「自分はキリスト教徒の洗礼を受ける」と言っていたことが、最後まで洗礼を受けなかったことも西洋での使節に対する不信感を生み、通商交渉挫折へとつながっていました。

特別対談の音声はこちらから

令和2年4月19日(日)
Date fm(エフエム仙台)
夜7時〜7時55分放送
ラジオ番組放送終了後は
宮城県民共済ホームページ内の
「宮城の歴史さんぽ道」
特設ページからも聴取いただけます。

※ホームページ内のアーカイブ(音声)の公開は、予告なしに中止することもあります。あらかじめご了承ください。



なければならぬ歴史事項として、この慶長遣欧使節が語り継がれるようになりました。当初は通商交渉失敗の歴史と考えられていましたが、次第にその価値が認められ、政宗公や常長の努力は決して無駄ではなかったと感じています。仙台湾の歴史遺産というのはいま、素晴らしいですね。

最後に支倉常長帰還400年にあたり、この歴史が現代の私たちに遺したメッセージをどのように伝えていきたいですか。

まず、具体的な形として表しているのが、サン・ファン・パウティスタ号という500トンもの復元船になります。この船は、東日本大震災で8メートルもの津波を受けても一生懸命立ち向かい、そのままでの姿で残ったことから、復興のシンボルにもなっています。いずれは新たな後継船として生まれ変わることになります。支倉常長帰還400年をひとつの節目として、新しい船を中心に歴史的活用をしながら後世へ伝えていきたいです。それから、私たちには計画するだけでなく必ず実行するという先祖から受け継いだDNAがあると思います。この先祖や歴史から教えられた失敗を恐れずに新しい時代を築き上げていく勇氣と行動力を持つことの大切さを、これからも皆さんに伝えていきたいです。